

議会だより

CONTENTS

2021.2.1 vol.69

11月臨時会
12月定例会

- 2 ... 12月定例会 ここに注目!
- 3 ... 常任委員会レポート
- 4 ... 決算特別委員会レポート
- 9 ... 意見書
- 10 ... 11月臨時会・12月定例会で審議された案件
- 12 ... 一般質問
- 16 ... 平戸のチカラ



志々伎町に移住された、乾 史弥さん(31歳)

とかいせん

No.69 2021.2.1 平戸市議会だより

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail:gikakai@city.hirado.lg.jp



このコーナーでは、平戸市にU・Iターンし、地域で元気に頑張っている皆さんをご紹介します。

地域の方の心遣いに感謝。 一人前のアスパラ農家を目指します。

大阪府門真市から平戸市志々伎町に移住して来られ、新規就農者としての生活をスタートしている乾史弥さんをご紹介します。



史弥さんのハウス前

●移住への憧れ

大阪府門真市から平戸市に移住して来られた乾史弥さん。大阪の高校を卒業し、大学の商学部へ進学。大学在学中に九州一周の旅をし、移住への憧れを抱きます。大学卒業後、大阪の高圧ガス運搬会社へ就職をしますが、3年前、大阪で起きた地震を契機に「仕事中に起こる事故への危険性と人口と建物が密集した都会での災害リスクへの不安から離れ、安心感のある土地で生活をしたい」と、移住することを本格的に考えるようになります。

移住をするなら九州へ。九州北部の糸島、南部の鹿児島、そして西部の平戸市を候補地として考えました。その中で、移住者に対する対応や支援が一番良かったことから、平戸市を移住の地に決め、志々伎町へ移ることになりました。

●農業の道へ

「農業をしていた祖父母の影響もあり、幼い頃から身近にあった農業。新規就農者への支援制度があることを知ったことで会社を退職する決断ができました」と、移住先での生活のため、農家への道を選んだ史弥さん。長崎県の新規就農支援制度を利用し、技術習得支援研修に参加。諫早市で2か月間の基礎研修、平戸市内の農家の方のもとで10か月間の研修を行いました。

「平戸市での実地研修では、アスパラガスかイチゴの栽培を選択することになりましたが、祖父母がイチゴ農家だったこともあり、違う品目に挑戦してみようとアスパラを選びました」。研修終了後、ビニールハウスを建て、アスパラでの新規就農をスタートさせました。

●平戸市での生活

「平戸は自然豊かで景色もよく、想像よりずっと住みやすい地でした。初めて夜空の流星群を見た時の感動は一生忘れません。海も近いので釣りにもよく行くようになりました」と史弥さん。

「特にこの地域の方は、近所付き合いも深く、ハウスの様子もよく気にかけてくれます。農機具を貸して下さったり、土づくりも快く手伝っていただき、本当に感謝しています。皆さんが声をかけてくださることで、農業という新しいことへの挑戦にも不安がなく、初めての土地での生活にも安心感を持っています」と笑顔で話します。

●今後について

まずは、今後5年間、アスパラ栽培の知識や技術を磨きたいという史弥さん。「完熟堆肥が手に入らないことに苦労しています。灌水方法も模索中です」と、すでにアスパラ農家の顔を見せながら「将来はここで家庭を持ち、一人前のアスパラ農家を目指していきたい。研修先の農家の方は、アスパラを病気にさせないことを徹底されていました。私も葉を見て病気の判断ができるようになりますね。師匠であり、研修でお世話になった農家の方がこれからの目標です」と充実した日々を語っていただきました。



趣味の釣りを楽しむ史弥さん

広報特別委員会

委員長	池田	稔巳
副委員長	松尾	実
委員	井元	宏三
委員	近藤	芳人
委員	山崎	一洋
委員	山本	芳久

編集後記
新型コロナウイルスが国内で認識をされ始め、早一年が経つ。オリンピックを始め、ほぼ全ての全国的なスポーツ・文化イベントが中止や延期を余儀なくされ、これまで日常として行われていたことが困難となり、当たり前に行われていたことが当たり前でなくなり、これまでの「日常」に改めて感謝するということを再認識させられた一年ではなかったか。
一部の国では、ワクチンが承認され接種が始まったものの、国内の一般市民に接種されるのは、まだまだ先のようである。まだ、コロナ禍は続きそうである。これにより、生み出される「日常」に対する感謝の心は、これほど増やされるのか、コロナが解消された後に、認識することも大事ではないだろうか。(井元 宏三)

